

適用範囲		モデル名		PH20-11	PH20-11A	PH10-50, 50A	PH30-11
		主仕様	吸吐弁型式	—	スキューズ	スキューズ	スキューズ
			最大吐出量	m ³ /h	20	20	30
			最大吐出圧力	MPa	1.2	1.2	1.8
			7メートル最大地上高	m	11	11	11
		適用号機		87P00001～91P*****	97P00001～98P*****	84P000001～90P*****	90P000001～97P*****
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min	—	—	—	—
		ロータ回転数	回/min	25±1	25±1	30±1	30±1
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)
	かくはん装置	回転速度 チェーンのたわみ	min ⁻¹ mm	18±3 20・チェーン中央	18±3 20・チェーン中央	26±3 20・チェーン中央	22±3 20・チェーン中央
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱1500 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)
		圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
	真空ポンプ	圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
		Vベルトのたわみ	mm	20・Vベルト中央	20・Vベルト中央	15～20・Vベルト中央	15～20・Vベルト中央
	ブーム装置	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ ブーム (2) シリンダ ブーム (3) シリンダ ブーム (4) シリンダ ブーム (5) シリンダ	mm mm mm mm mm	0.5 以下 0.5 以下 — — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 — —
			(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min) (—) [図面No.]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]
		ブームシリンダ 作動時間	ブーム (1) 伸び 縮み	sec sec	35±10 35±10	35±10 35±10	35±10 35±10
			ブーム (2) 伸び 縮み	sec sec	55±10 70±10	40±10 35±10	40±10 35±10
			ブーム (3) 伸び 縮み	sec sec	— —	20±10 20±10	20±10 20±10
			ブーム (4) 伸び 縮み	sec sec	— —	— —	— —
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用) 空圧機	吐出圧力	油圧 水圧 飛距離	MPa MPa m	— 1.2	— 1.2	— 1.8
			吐出圧力	MPa	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)		(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

☆印：新車基準値を表す (参考値)。

PQ10-10	PH35 (AB)-11	PH40-14	PH45 (A)-14 (A)	PH40-16	PH50-14	PH50-16	PH50 (AB)-17
スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ	スキューズ
40	35	40	45(32) 特記5)	40	50	50(30)	50(36)
1.8	2.5	1.8	1.8(2.5)	1.8	2.0	1.5(2.5)	1.8(2.5)
<7メートル無し>	11	14	14	16	14	16	17
81P000001～95P*****	00P095005～	90P010001～93P*****	97P000001～	99P030001～96P*****	90P020001～93P*****	99P020001～99P*****	99P040001～
検査基準値							
— 40±1	— 26±1 特記5)	— 40±1	— 36±1	— 44±1	— 36±1	— 40±1	— 40±1
(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (1940 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)
29±3 20・チェーン中央	30±3 20・チェーン中央	21±3 20・チェーン中央	28±3 20・チェーン中央	25±3 20・チェーン中央	25±3 20・チェーン中央	23±3 20・チェーン中央	30±3 20・チェーン中央
(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (1940 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (注)で異なる) (50±10)
0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)	0.083 (10分以内)
0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)	0.007 (60)
15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)	15～20・Vベルト中央 (電動モータ駆動)
— — — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —
(—) (—) [—]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]
— —	45±10 70±10	40±10 35±10	50±10 60±10	35±10 30±10	38±10 30±10	55±10 60±10	60±10 60±10
— —	40±10 55±10	35±10 35±10	40±10 55±10	40±10 35±10	40±10 40±10	45±10 65±10	45±10 65±10
— —	30±10 40±10	50±10 55±10	30±10 40±10	50±10 60±10	50±10 55±10	40±10 60±10	45±10 60±10
— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	20±5 30±5
— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
(—) (—) [—]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]
1.8 —	2.5 —	1.8 —	2.5 —	1.8 —	2.0 —	2.5 —	2.5 —
— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)	(—) (—) (—)

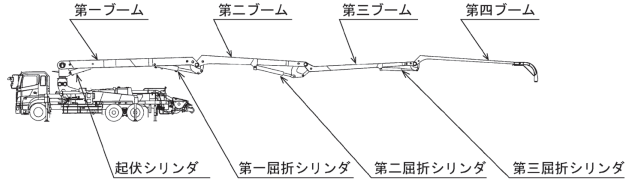
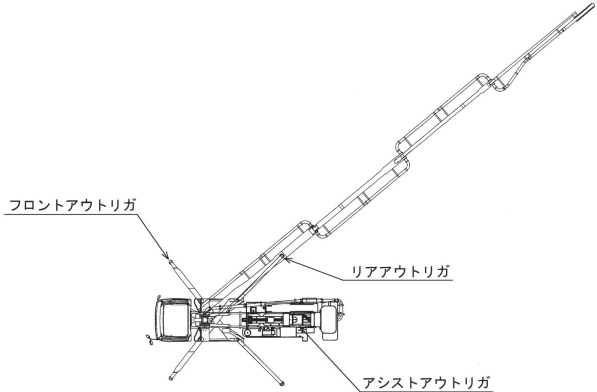
極東開発工業

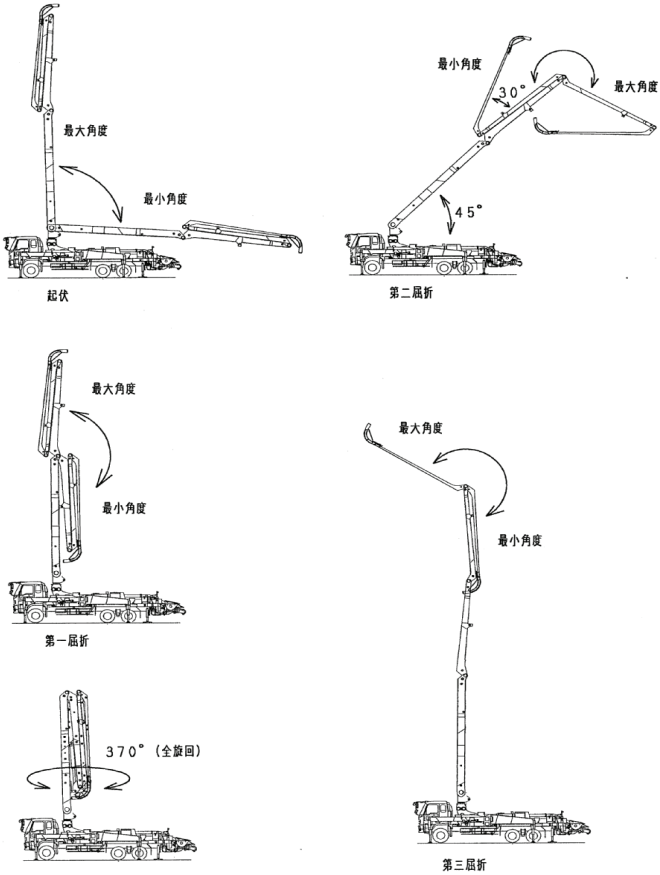
適用範囲		モデル名		PH20-11	PH20-11A	PH10-50, 50A	PH30-11
		主仕様	吸吐弁型式	—	スキーズ	スキーズ	スキーズ
			最大吐出量	m ³ /h	20	20	30
			最大吐出圧力	MPa	1.2	1.2	1.8
			7 [°] 最大地上高	m	11	11	11
		適用号機		87P00001～91P*****	97P00001～98P*****	84P000001～90P*****	90P000001～97P*****
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	13.7±1	13.7±1	20.6±1	17.4±1
		弁シリンダ油圧	MPa	—	—	—	—
		かくはんモータ油圧	MPa	7.4±1	7.4±1	8.8±1	7.4±1
		プー ム 油 圧	MPa	17.2±1	20.6±1	20.6±1	20.6±1
		ACC ガス封入圧力	MPa	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀)
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの締付け	内輪取付ボルトの締付トルク	N・m	167±9.8	167±9.8	167±9.8	167±9.8
		取付ボルトの交換基準	年	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)
		旋 回 速 度	sec	100±10	100±10	90±10	100±10
	☆旋回作動速度	(旋回作動角度)	(度)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1500 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 1500 ⁺⁰ ₋₅₀	いすゞ1780 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 1500 ⁺⁰ ₋₅₀	いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 2000 ⁺⁰ ₋₅₀	いすゞ2080 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 1500 ⁺⁰ ₋₅₀
		(作 動 油 温 度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
	アウトリガ 自然伸縮量	各垂直シリンダ	mm	0.5以下	0.5以下	0.5以下	0.5以下
		(測 定 時 間) (作業装置姿勢)	min [図面No.]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]
特記事項				1)ボンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うので、ホベレに異常の有無を確認し異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ボンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。 3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング 輪 (外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。			

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PQ10-10	PH35 (AB)-11	PH40-14	PH45 (A)-14 (A)	PH40-16	PH50-14	PH50-16	PH50 (AB)-17
スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ	スキーズ
40	35	40	45(32) 特記5)	40	50	50(30)	50(36)
1.8	2.5	1.8	1.8(2.5)	1.8	2.0	1.5(2.5)	1.8(2.5)
<7 [°] 無し>	11	14	14	16	14	16	17
81P000001～95P*****	00P095005～	90P010001～93P*****	97P000001～	99P030001～98P*****	90P020001～93P*****	99P020001～99P*****	99P040001～
検査基準値							
17.2±1	25.0±1	19.6±1	25.0±1	21.1±1	21.1±1	25.0±1	25.0±1
—	—	—	—	—	—	—	—
6.9±1	8.0±1	7.4±1	8.0±1	8.0±1	7.4±1	8.0±1	8.0±1
—	27.5±1 特記6)	20.6±1	27.1±1	27.1±1	20.6±1	27.1±1	27.5±1
—	—	—	—	—	—	—	—
(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2380 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 2000 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀) (1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀) (2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (1940 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀) (ｼｬｼで異なる) (50±10)
—	167±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	167±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8	294±9.8	325.6±9.8	325.6±9.8
—	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)	特記 4)
—	60±10	140±10	60±10	75±10	100±10	75±10	55±10
(—)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)
(—)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1750 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2050 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2160 ⁺⁰ ₋₅₀)
(—)	(ｼｬｼで異なる)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(ｼｬｼで異なる)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1940 ⁺⁰ ₋₅₀)	いすゞ2570 ⁺⁰ ₋₅₀ 三菱 2160 ⁺⁰ ₋₅₀ (50±10)	(ｼｬｼで異なる)
(—)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
—	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
(—) [—]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]	(10) [図 No. 2]
1)ボンプ圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うので、ホベレに異常の有無を確認して異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ボンプの場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。							
		3)シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング 輪 (外輪 又は 内輪)のボルト全数交換。					
5)低圧時ミッション4速、高圧時3速 (PQ10-10)	5)OP仕様ワークの回転数は36±1 6)起伏縮のみ10±1 MPa		5)PH45-14 は45 (35)				

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)